



フラミンゴの色のひみつ!

フラミンゴのピンク色は、実は食べ物のプランクトンに含まれる色素によるもの。このプランクトンを約90度に曲がった嘴を使って、シヨベルカーのように水ごと大量にすくいあげるんだ。そして、舌を出し入れすることによって濾しとって(水だけを嘴から出して)食べているんだよ。動物公園では、フラミンゴ用ペレットやオキアミを与えているよ。

▲エサをすくい取る様子はまるでシヨベルカー!



ところが…ピンクじゃないフラミンゴがいた?!



▲孵化したてのヒナ

生まれたてのフラミンゴは、なんとビックリ!うすい灰色をしているんだ。両親から口移してフラミンゴミルクと呼ばれる真っ赤な液体をもらって成長するよ。ヒナにフラミンゴミルクを一生懸命に与えていた親鳥は、すっかり色あせて白っぽくなってしまふんだ。

2017年に行った調査研究発表を紹介

実施月	研究タイトル名	場所	研究会名	発表者等
2月	アマミノクロウサギの傷病保護と飼育下における成長	日本モンキーセンター(愛知県)	第64回動物園技術者研究会	落合晋作・海道夢紀・桜井普子・伊藤ななお・前谷史恵・伊藤綾夏(平川動物公園)・伊藤圭子(ゆいの島どうぶつ病院)
"	飼育下ヒントロングの自然繁殖と子の成長	"	"	松元悠一郎・鈴木大河
"	鹿児島市平川動物公園におけるアマミノクロウサギの傷病保護	奄美市	平成28年度奄美希少野生生物保護増進検討会	落合晋作・伊藤ななお
6月	鹿児島島の両生類・は虫類はどげんな!? ~フィールドレポートから紹介~	鹿児島市平川動物公園	第21回西日本両生爬虫類会議	落合晋作
"	カミツキガメにみられた扁平上皮癌の一例	"	"	伊藤ななお・桜井普子・前谷史恵・伊藤綾夏・若松富男・川久保祥・牟禮麻衣
9月	オンドリの跛行とレントゲンで見られた骨打ち抜き像の症例報告	対馬野生生物保護センター	第31回九州沖縄ブロック動物園水族館獣医師臨床研究会	桜井普子
11月	平川動物公園におけるチンパンジー飼育の過去、現在、未来	日本モンキーセンター(愛知県)	第20回SAGAシンポジウム	福守朗
"	平川動物公園におけるチンパンジーの立体構造物利用について	"	"	小村圭・森香奈・福守朗・吉井みや子
"	鹿児島県に生息する希少種(特にツル類・奄美群島生息種)の傷病個体の生息域外保全への活用	仙台市八木山動物公園	種保存会議シンポジウム	落合晋作・福守朗・海道夢紀・桜井普子・伊藤ななお・前谷史恵・伊藤綾夏
"	ゾウの飼育展示に関する来園者の反応 ~アンケート調査からの分析~	鹿児島市平川動物公園	第27回ゾウ会議	落合晋作・松元悠一郎・鈴木大河・海道夢紀
"	インドゾウの蹄病変の治療経過	"	"	伊藤ななお・桜井普子・落合晋作・松元悠一郎・鈴木大河・海道夢紀(平川動物公園)・川口博明(鹿児島大学大学院医学歯学総合研究科衛生学)
"	40歳を迎えたオスゾウの飼育管理と今後の課題	"	"	松元悠一郎・鈴木大河・落合晋作・海道夢紀
12月	Rhino Keeper Workshop の参加報告	京都市動物園	第65回動物園技術者研究会	牟禮光希
"	鹿児島市平川動物公園における奄美群島での傷病希少種保護活動	"	"	落合晋作・海道夢紀・桜井普子・伊藤ななお・前谷史恵・伊藤綾夏(平川動物公園)・伊藤圭子(ゆいの島どうぶつ病院)



〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1  
 TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328  
 ■開園時間:午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)  
 ■休園日:12月29日~1月1日  
 URL <http://hirakawazoo.jp/>  
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>  
 Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>  
 動物取扱業の種別:展示 登録番号:生衛動取 第357号 登録の年月日:H28.5.11  
 有効期間末日:H33.5.11 動物取扱責任者:桜井普子

携帯サイトへアクセス!



編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号  
 TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690  
 URL <http://k-kouenkousya.jp>  
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

# Zooっと平川



## 特集1 成年特集 平川動物公園のイヌたち

## 特集2 ~コアラの命を支える木~ ユーカリに注目

## 特集3 ゾウ会議を開催しました



今年は成年(いぬどし)です。現在平川動物公園では4種類のイヌ科の動物たちが暮らしています。いかにも犬っぽいオオカミや身近な存在のキツネやタヌキ、そしてあまり知られていないヤブイヌまで「動物公園のイヌ」を一挙に紹介します。



## ●シンリンオオカミ

<学名>Canis lupus lycaon  
 <英名>Eastern timber wolf  
 <分類>食肉目イヌ科  
 <生息地>北アメリカ北部  
 <主食>シカやウサギなど  
 <展示エリア>野生のイヌネコゾーン



## ●シンリンオオカミとはどういうオオカミ?

現在オオカミは北アメリカ大陸からユーラシア大陸の広い範囲に分布しており、これらのオオカミを総称して「タイリクオオカミ」と呼んでいます。その中でも北アメリカに生息するものを「シンリンオオカミ」、ロシア周辺に生息するものを「シベリアオオカミ」などと呼び、体格や毛色なども少しずつ異なることからそれぞれ別の名前と呼んでいます。

### 【オオカミの体の特徴】

オオカミの体には私たち人間にはない優れた機能や特徴があります。ここではその一部を紹介します。

尾は走る時にバランスを取るだけでなく仲間とコミュニケーションを取る時にも使われています。

毛は季節に合わせて生え変わり、夏はサラサラで涼しく、冬はフワフワの暖かい毛になります。

耳は大変よく10km離れた他のオオカミの遠吠えを聞き、どのくらい離れているか感じ取ることができます。



### 【オオカミの生態マメ知識】

## ●オオカミの群れは「パック」

ライオンの群れのことを「プライド」と呼ぶように、オオカミの群れのことを「パック」と呼びます。パックは十数頭からなり、通常1組の父親と母親そして前年の仔と前々年の仔を含めた家族を中心に構成されています。パックの中ではリーダーである父母以外は繁殖をせず、兄妹は親が産んだ仔の世話を一緒にしながら生活をします。



## ●一匹オオカミは本当にいる!?

パックの中で育ったオスのオオカミは2年ほどでその群れの中にとどまるか、ひとり立ちして群れを離れるか決断を迫られます。こうして群れを離れることを選んだオオカミは、ペアを見つけ新たな群れをつくりあげるまでは一匹で行動することを余儀なくされます。このように単独で行動しているオオカミを「一匹オオカミ」といい、実際に自然の中にも存在しているのです。



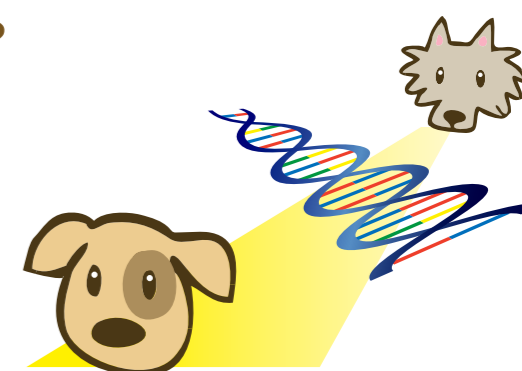
## ●群れのと持久力で大物を狙う

チーターなどが速い足を活かしてスピードで狩りをするのに対し、オオカミは群れで長時間にわたり獲物を追いかけて、疲れさせてからしとめます。同じ肉食獣ですが、チーターは瞬発力、オオカミは持久力で狩りを行い、群れの力を活用することでより大きな獲物を手に入れることができるのです。



## ●本当にオオカミは犬の祖先なの?

以前からオオカミと犬の関係には諸説があり、多くの議論がなされてきました。しかし近年オオカミや犬のDNA研究が各国で行われてきた結果、オオカミが長い年月をかけ現在の犬へと進化したとするのが通説となっています。



## ●平川動物公園のシンリンオオカミ



名前/ロジック  
 性別/オス  
 生年月日/2010年4月11日  
 出身地/群馬サファリパーク  
 毛色はグレーで、まるで犬のような優しい顔をしています。性格はとても臆病で飼育員も手を焼いていますが、そのぶん賢く従順な一面もあります。



名前/ミナ  
 性別/メス  
 生年月日/2014年5月6日  
 出身地/旭山動物園  
 毛色は全体的に白っぽく、まさに狼らしい顔だちをしています。まだ若く血気盛んで、オスのロジックを立てつつ時には逆らうこともある男勝りの女の子です。



## ●ヤブイヌ

<学名> *Speothos venaticus*  
 <英名> Bush dog  
 <分類> 食肉目イヌ科  
 <生息地> 南アメリカ北部～中部  
 <主食> 小動物やカピバラなど  
 <展示エリア> 野生のイヌネコゾーン

### ●ヤブイヌとはどんなイヌ？

ヤブイヌはその名のとおり草むらや森林で暮らしており、小柄で胴長短足な体はヤブの中を走り抜けるのに丁度いい体形です。また群れで生活し、自分より大きな獲物も捕らえる小さくてもパワフルな肉食獣です。

#### 【ヤブイヌの意外な一面】

### ●実は泳げます！

足は短いですが指の間に小さな水かきがあって、水の中を泳いだりもぐったりすることもできます。獲物を水中に追い込み捕らえることもあるそうです。



### ●穴掘りが大好き！

野生では自分で掘った穴やアルマジロの巣穴をすみかにしています。そのため動物公園でも展示場の地面に穴ができていたり、夢中でトンネルを掘る姿を見かけることがあります。



### ●「ワンワン」とは鳴きません！

ヤブイヌはイヌの仲間ですが「ワンワン」とは鳴かず「キュキュ」「ピィピィ」という様な甲高い声で鳴きます。この声で群れの仲間とコミュニケーションを取っています。



### ●平川動物公園のヤブイヌ



名前／右京(ウキョウ)、左京(サキョウ)  
 性別／オスの双子  
 生年月日／2014年6月11日  
 出身地／京都市動物園  
 パッと見ると区別が付きませんが、ずっと見ていると右京がキツネ顔で左京が丸顔なのが分かります。2頭はとても仲がよく、常に行動をともにしています。



▲仔タヌキ(約30日齢)



## ●ホンドタヌキ

<学名> *Nyctereutes procyonoides viverrinus*  
 <英名> Japanese raccoon dog  
 <分類> 食肉目イヌ科  
 <生息地> 日本(北海道以外)本州、四国、九州  
 <主食> 小動物、鳥、果物、昆虫など  
 <展示エリア> かごしまの動物ゾーン

#### 【タヌキの性質】

### ●家族で暮らします！

タヌキは夫婦とその子どもたちで作られる小さな群れで暮らします。展示場に6頭があり、群れとして暮らしています。寒い日はみんなでくっつきあい、互いを暖めます。

### ●溜め糞をします！

群れに侵入者がいないか、家族がそろっているかを確認するため、溜め糞をします。みんなで1ヶ所にまとめて排泄をすることで、その匂いから群れの変化を察知できます。飼育下でもこの行動は見られます。

### ●4つ仔を紹介！

平成28年5月21日に子どもが生まれました。成長し、見た目はすっかり大人と同じになりましたが、中身はまだまだやんちゃです。4つ仔には誕生日にちなみ、誕生花からそれぞれ名前を付けています。  
 エリゲロン→エリ(♀)紅一点！  
 ムクゲ→ムク(♂)おっとりマイペース！  
 ラークスパー→ラーク(♂)活発やんちゃボーイ！  
 カスミソウ→ソウ(♂)フェンス登りが得意!(※)  
 ※今は血統管理のため非公開エリアにいます。



▲タヌキ家族

## ●ホンドキツネ

<学名> *Vulpes Vulpes japonica*  
 <英名> Japanese red fox  
 <分類> 食肉目イヌ科  
 <生息地> 日本(北海道以外)、本州、四国、九州  
 <主食> 小動物、鳥などの肉類  
 <展示エリア> かごしまの動物ゾーン

### ●1頭で暮らします！

タヌキとは違い、繁殖期以外は1頭で生活をしています。平川動物公園でもオスのボール1頭を飼育しています。ガラス越しの岩の上がお気に入りの場所で、とても観察しやすいのでぜひご覧ください！



～コアラの命を支える木～  
**ユーカリに注目**



皆さん、コアラは何を食べて生きているか知っていますか？

これです。この葉っぱです。この葉っぱは「ユーカリ」と呼ばれている植物です。コアラはこの「ユーカリ」の葉っぱを食べて生きている動物です。今回はあまり知られていないコアラのエサ、「ユーカリ」について紹介します。

ユーカリってどんな木？



フトモモ科ユーカリ属  
 分布：オーストラリア  
 約 600 種類以上あると言われており、四季を通じて常に緑葉を保つ常緑樹です。

殺菌作用や鎮痛、鎮静作用がありアロマや石鹸の原料にも使われています。ユーカリを使った製品は私たちの身の周りにもあります。



アロマオイル



石鹸

コアラのエサとしてのユーカリ



平川動物公園では現在10種類のユーカリを栽培しており、1日3～5種類をまとめて与えています。どのような種類があるか代表的なものを紹介します。



・テレチコルニス  
 毎日コアラに与える主食。葉が波打っているのが特徴です。



・カマルドレンシス  
 定期的に与える副食。葉先が尖っているのが特徴です。

ユーカリは、種類を見分けるのが難しく、飼育員でも様々な特徴を使って見分けています。しかしコアラは匂いを嗅ぐだけで、自分の好みのユーカリを見つけることができます。



器用に前脚でユーカリの枝をたぐり寄せて美味しそうに食べる姿は愛嬌たっぷりです。特に新芽の部分を好んで食べるので、なるべく新鮮な新芽のついた枝を採取し与えています。

平川動物公園のユーカリ



コアラに与えるユーカリは動物園が農家や森林組合の方と連携して栽培しています。栽培には様々な手を掛けなければいけません。どのように管理し、コアラに与えているのかを紹介します。

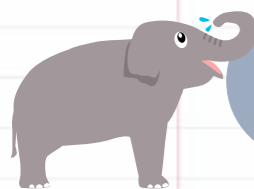
- 3月頃に苗を植えます。苗は全て手作業で植えます。
- 苗を植えた後は成長の妨げにならないように年数回草刈を行います。
- 苗が大きくなったら風等で倒れないように麻ひもを使って結束します。
- 台風の際には倒れないように予防したり、倒れてしまった木の整備をします。
- 大きくなったユーカリはチェーンソーも使って高さを低く抑えます。
- 採取する時はユーカリの枝をコアラが食べやすい長さに切りそろえます。
- 切りそろえた枝を車へ運び、水の張ったバケツに入れます。
- 採取したユーカリは車で動物公園まで運びます。
- 採取したユーカリは一度洗ってからコアラに与えます。

ユーカリは成長が早く、伸びる時には1日に1～2cm伸びることもあります。しかしエサとして使えるようになるまで約3年かかり、そこまで育てる管理やそこからの維持管理にかなりの時間を費やします。多くの人の協力のおかげでコアラの命は支えられているのです。

飼育係より

現在平川動物公園では約9,000本のユーカリを栽培管理しています。現在の飼育頭数に対して決して多いとは言えませんが、今後もコアラの命を支えるために質の良いユーカリを育てていきます。2017年はコアラの赤ちゃんも誕生しました。ますます賑やかになる平川動物公園にぜひ遊びに来てください。

コアラ担当：永榮・望月、ユーカリ担当：松窪・徳重



# ゾウの飼育員大集合!

第27回  
ゾウ会議を開催しました!

平成29年11月29日～30日の2日間、当園が開催園となり、公益社団法人日本動物園水族館協会が主催する第27回ゾウ会議を開催しました。ゾウ会議とは「ゾウ飼育の安全対策及び飼育繁殖環境の向上を図るための会議」で毎年開催されています。全国の動物園から飼育員や獣医師が80名以上集まり、大学関係者も交えてゾウの飼育についての様々な議論が交わされました。会議の様子について紹介したいと思います。

## ○研究発表

ゾウに関する様々な研究発表が行われました。口頭発表は15題、ポスター発表は6題あり、当園からも3題の研究発表を行いました。健康管理や行動解析、移動の事例紹介、繁殖、そして死亡個体の原因紹介などが発表されました。どのような些細なことでも、ゾウ飼育に携わる者にとっては非常に有益な情報であり、他園や海外の情報を共有できる非常に重要な時間でした。質疑応答も活発に行われ、飼育技術や動物福祉をもっと充実させようとする意気込みが感じられました。



## ○グループ討議

ゾウ飼育の特性上、忘れてはならないのが「安全」というキーワードです。当園のインドゾウは雌雄ともに約3,500kg。ミニバン2台分の体重がある巨体です。優しく力持ちというイメージがあるゾウですが、力持ちと巨体があだとなって、ゾウに攻撃する意思がなくても、思いもよらない事故が過去にも起こっています。近年、ゾウによる事故があったことから、グループに分かれて安全対策等について議論しました。同じゾウを飼育するスタッフにとっては、またとない意見交換の場で貴重な時間となりました。

## ○平川動物公園の施設見学

会議の最後は、当園のゾウ展示場とオスの「ラウナ」のトレーニングの様子を公開しました。トレーニングは巨大な体の隅々までチェックし、必要であれば伸びすぎた爪を削り、安全にストレスなく、健康管理ができるようにしています。「ところ変わればなんとやら」で、ゾウも変われば手法が変わり、ゾウに合わせた健康管理について学んでいただきました。



## 最後に…

日本の動物園で飼育されているゾウは、アジアゾウが32園78頭、アフリカゾウは17園35頭です(平成29年11月現在)。過去にはもっとたくさんのゾウが動物園で飼育されていましたが、商取引の禁止や野生下での個体数減少が影響し、現在では動物園へやってくるゾウは極端に減りました。アフリカゾウでは20年後には、数頭にまで減っているという試算もあります。こういった状況をただ指をくわえて見るだけではありません。ゾウ飼育園が協力し、繁殖のための個体移動や人工授精技術の模索など、様々な活動を行っています。ここ数年では毎年繁殖が見られ、飼育や繁殖技術は向上しています。これらの技術や熱意を通して、野生のゾウたちが少しでも安心して暮らし、生息数が回復できるよう、動物園のゾウを通じて私たちが活動していきたいと思えます。



▲当園のインドゾウ 左オス:ラウナ 右メス:アンリー



# 巣箱づくり教室

毎年、動物愛護週間イベントの一環として「巣箱づくり教室」を行っています。2017年は9月18日(月・祝)に開催しました。多くの野鳥が巣作りや子育てをするのは春なのですが、なぜこの時期に巣箱を作るのでしょうか?それは警戒心が強い鳥たちが新しく取り付けけた巣箱を「危険なものではなさそう」と、認めるまで一定の時間が必要だからです。

事前に申込みをされた11組の方々にご参加いただきました。園内でも見かけることができ、大きさも手頃なシジュウカラの巣箱を作ることにしました。まずは作業の手順や注意事項、巣箱を持ち帰って取り付ける方法や時期について動物園スタッフがテキストに沿って説明をしました。





さっそく材料の杉の板とノコギリを渡され作業開始です。なかなか思い通りに板が切れません…そんな時は心強い味方、ボランティアスタッフが手助けしてくれました!さらに釘と金づちを使い組み立てていきます。

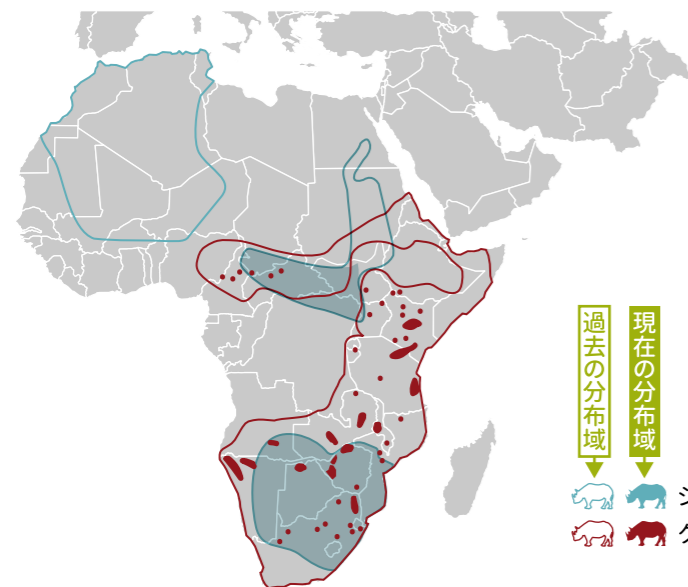


斜めになっている屋根の部分で皆さん苦戦されていましたが、予定の時間より早く巣箱が完成しました。最後にバーナーで表面を焼いて仕上げをします。暖かくなる頃、小鳥が利用してくれたらいいですね!



毎年、9月22日は「世界サイの日」です。「世界サイの日」は、現存する5種全てが絶滅に瀕しているサイの現状を広く理解し、保護するために、2010年にWWF(世界自然保護基金)南アフリカが提唱し、翌年から活動を始めました。今では毎年世界中の動物園でこの日にサイのイベントが実施されています。平川動物公園でもこの活動に賛同し、毎年世界のサイの現状を伝えるイベントを実施しており、2017年は9月24日(日)に実施しました。今回はイベントでお話した世界のサイの現状について紹介したいと思います。

クロサイ Black rhinoceros	シロサイ White rhinoceros	
 <p>主に低木の葉や枝を食べます。葉や枝をつかみやすい様にとがっている上唇が特徴です。現在主に南アフリカ、ナミビア、ケニア、ジンバブエ、タンザニアに生息しています。一時は2,500頭以下にまで減少しましたが、近年は約5,400頭にまで増加しました。</p>	 <p>主にサバンナの下草を食べます。約9割が南アフリカに生息し、世界に約20,000頭が生息しています。シロサイの亜種にはキタシロサイとミナミシロサイの2亜種がありますがキタシロサイはあと2頭しか生存していません。</p>	
インドサイ Greater one-horned rhinoceros	スマトラサイ Sumatran rhinoceros	ジャワサイ Javan rhinoceros
<p>主に湿地に生える丈の高い草や水草を食べています。アジアのサイのなかでは最も大きい種で角は1本で短めです。インドとネパールの沼地などを中心に生息しており、現在は約3,500頭が生息しています。</p>	<p>熱帯雨林に暮らし、主に低木の枝葉、樹皮、果実などを食べます。サイのなかでは最も小さく、茶色がかった皮膚に赤茶色の毛が生えていることが特徴です。現在は東南アジアのスマトラ島とボルネオ島、マレー半島に分布しているとされています。生息数は約100頭と考えられています。</p>	<p>熱帯雨林に暮らし、主に木の枝や葉、植物を食べます。角は1本で、インドサイよりも身体は小さく、ヒダと突起のある外見です。インドネシアのウジュン・クロン国立公園のみに生息しており生存数は約60頭と考えられています。</p>



左の図はおおよその過去と現在におけるアフリカのサイの分布図です。図の通り過去はどのサイも広い地域に生息していましたが、現在は生息地も個体数も大幅に減少してしまいました。人間による密猟や環境破壊による生息地の減少が主な原因です。また、サイ以外にも多くの動物が絶滅の危機に瀕しています。このような野生動物についての理解を少しでも広められるように、平川動物公園では様々なイベントで動物たちの現状や素晴らしさをお伝えしておりますので、ぜひお越しください!!

平川動物公園で実施している	○○の日イベント		
世界ペンギンの日	4月25日	国際レッサーパンダの日	9月第3土曜日
世界バクの日	4月27日	世界サイの日	9月22日
ゾウの日	4月28日	国際テナガザルの日	10月24日
世界キリンの日	6月21日	世界野生生物の日	3月 3日

# イベント実施報告

## 干支の交代式

2017年も残すところあとわずかとなった12月27日と28日、酉から戌へ干支の交代式を行いました。まずは干支の成り立ち、漢字の意味などを紹介し今年的一年を振り返りました。そして引継ぎ書の授与、エサの交換...など今年の交代式は盛り沢山な内容でした。最後にはイヌ科の動物を代表して、オオカミへお肉のプレゼントもあり、オオカミたちの迫力ある食事風景に来園者の皆さんも興奮した様子でした。2018年も健康第一に、ワンダフルな一年となりますように!



▲トリからイヌへ引継ぎ書の授与



▲2018年よろしくね!

## 赤ちゃん紹介

# むぜもんじゃ

むぜもんじゃ: 鹿児島弁でかわいいねの意味

## マーラ(3頭)

メス1頭: 2017年9月7日生まれ  
オス2頭: 2017年9月18日生まれ

## こんな動物

げっし目テンジクネズミ科  
分布: 南アメリカ  
主食: イネ科の草など(草食)



▲生まれてすぐの赤ちゃん

## 野生では穴の中で出産

マーラは本来、外敵から守るため穴を掘って中で出産し子育てします。動物園ではカラスが赤ちゃんを襲うことがあるので、出産後しばらくは親子を安全な場所で過ごさせました。赤ちゃんは生まれてすぐに歩くことができます。

2週間ほどたつと、親子を群れに戻します。おっぱいが欲しい時は、お母さんのそばに寄っていきます。お母さんは座っていてもお乳をあげることができます



## ぐんぐん成長

生まれた時は体重わずか500g程度ですが、その成長はとても早いのです。生後20日ほどでこんなに大きくなりました。



▲お母さんも楽々授乳